

前回までの委員会における 主な指摘事項とその対応

令和3年8月4日

国土交通省 中部地方整備局

庄内川河川事務所

前回までの委員会における主な指摘事項とその対応

	指摘事項	対応
1	ソフト対策として情報提供のシステムが整備計画策定時からどのように変わっているのか、これまでの経緯も含めて、次回以降に示してほしい。	次回の庄内川水系河川整備計画(第4章 第3節等)の進捗状況の確認時に提示する。
2	過去からどのように河川への水の集まり方が変化したか、次回以降情報提供してほしい。	整備計画策定以降、流域全体の土地利用に大きな変化は見られない(詳細は次ページ)。一方で、流域の市町にて雨水貯留浸透施設の整備等が行われてきているため、その効果については引き続き検討を行う。
3	流域治水プロジェクトに関して、流域の各対策における定量的な評価が重要であるが、そのような評価を行っているのか。	流域の各対策における定量的な評価については、全国的にその手法も含め検討が進められているところであり、庄内川流域においても土岐川・庄内川流域治水協議会のなかで検討していく予定。

前回までの委員会における主な指摘事項とその対応

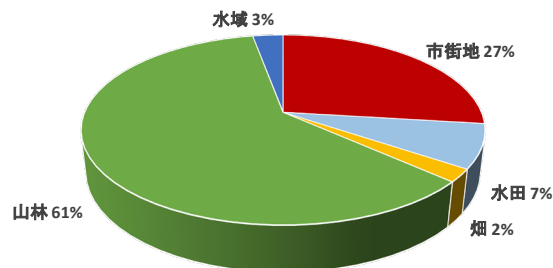
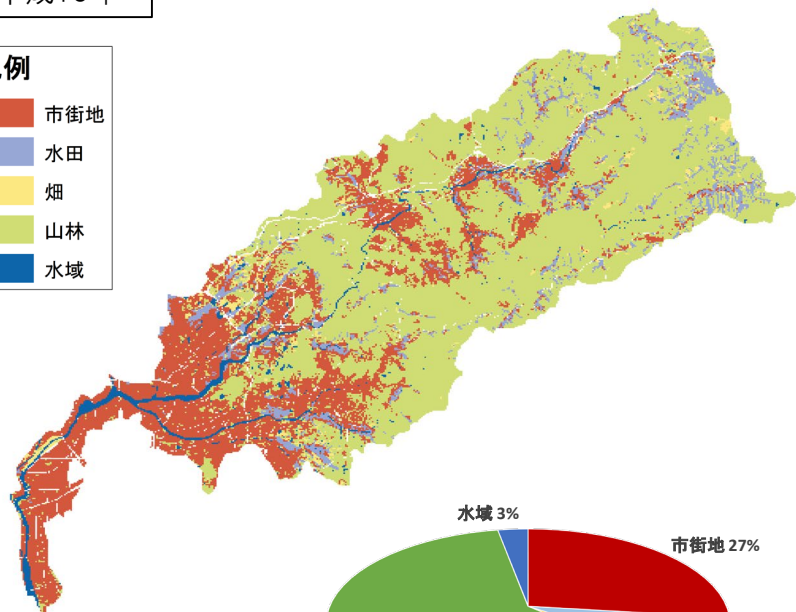
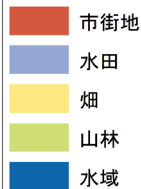
整備計画策定以降の土地利用の変遷

10年間の土地利用の変化

整備計画策定以降、市街地面積は若干の増加傾向(2%増)、一方で水田面積は減少傾向(2%減)にあるが、流域全体としては大きな変化は見られない。

平成18年

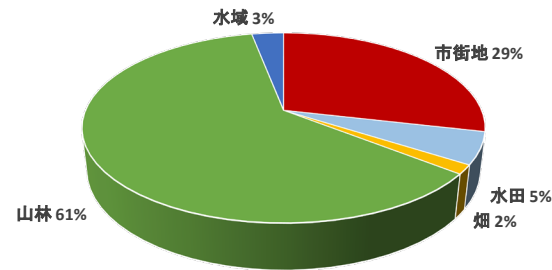
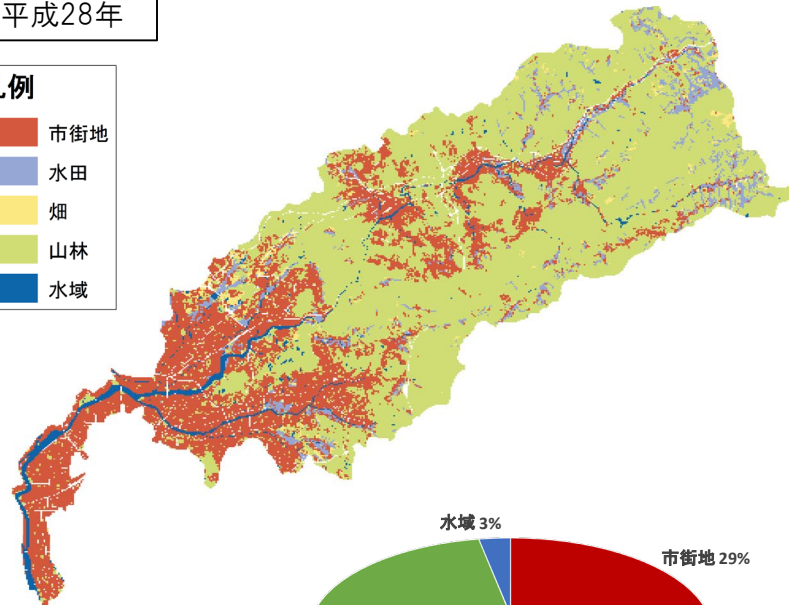
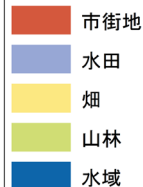
凡例



■市街地 ■水田 ■畑 ■山林 ■水域

平成28年

凡例



■市街地 ■水田 ■畑 ■山林 ■水域

土地利用種別の面積

